

ミニトマトの品種特性と生育・収量

大場 貞信・三浦 敏史*・山本 忠志

(青森県農業試験場・*青森県畑作園芸試験場)

Varieties, Growth and Yield of Cherry Type Tomatoes
Sadanobu ŌBA, Satoshi MIURA* and Tadashi YAMAMOTO

(Aomori Agricultural Experiment Station・*Aomori Field Crops
and Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

近年、食生活が向上し、野菜の需要も多様化の傾向にある。トマトについてみると従来の大玉種だけでなく、レストランなどの業務用、家庭内でのサラダ用などにミニトマトの需用が急増している。

そこで、ミニトマトについて11品種を供試して果実の特性・収量について検討したのでその結果を報告する。

2 試験方法

- (1) 試験場所 青森県農業試験場圃場
- (2) 供試品種 マーブル 100, ピコ, チェルシーミニ, サンチェリー, シュガーランプ, プチ, レッドペア, イエローペア, チェリーピンク, 乙姫, タイニーテム
- (3) 播種月日 1986年4月27日(マーブル100のみ4月30日)

(4) 定植月日 6月22日(露地普通栽培)

(5) 栽植距離 うね幅 100 cm, 株間 40 cm, 1条植

(6) 施肥量(kg/a) N; 1.0 P₂O₅; 1.0 K₂O; 1.0

3 試験結果及び考察

定植時の生育は、草丈ではシュガーランプ、チェリーピンクが高く、最も低いのはタイニーテムであった。展開葉数が最も多かったのは、レッドペアで次いでイエローペアと乙姫であった。

草勢は、レッドペア、イエローペアが強く、プチ、乙姫、タイニーテムは、弱かった。

花房の着生は、第1花房の着生節位はプチが10.3と高く、第2花房以降の着生節位は、ほぼ一定間隔でマーブル100、ピコ、チェルシーミニ、サンチェリー、シュガーランプ、レッドペア、イエローペアは3節ごと、プチ、乙姫は2節ごと、チェリーピンクは、5節ごと着生していた。タイニーテムは、心止まり型でブッシュタイプを示した。

表1 生育と花房の着生節位

品 種	定 植 時		花 房 着 生 節 位						
	草丈(cm)	葉 数	1 段	2 段	3 段	4 段	5 段	6 段	7 段
マーブル 100	45.4	9.5	8.4	11.4	14.4	17.5	20.4	23.4	—
ピ コ	44.7	10.0	8.7	11.7	14.7	17.7	20.7	23.7	—
チェルシーミニ	43.5	8.5	8.4	11.4	14.4	17.4	20.4	23.2	—
サンチェリー	43.0	8.8	8.5	11.5	14.5	17.5	20.5	23.5	—
シュガーランプ	47.3	9.0	8.6	11.8	15.3	18.5	21.5	24.4	—
プ チ	45.4	10.3	10.3	12.8	14.5	16.5	18.2	19.7	21.5
レ ッ ド ペ ア	41.4	10.8	9.3	12.3	15.3	18.3	21.3	24.3	—
イエローペア	41.4	10.7	9.7	12.7	15.7	18.7	21.7	24.7	—
チェリーピンク	46.7	8.9	8.0	13.7	18.6	—	—	—	—
乙 姫	44.8	10.7	9.2	10.7	12.7	14.3	15.7	17.7	—
タイニーテム	30.2	9.3	(ブッシュタイプ)						

各品種の1花房当たりの着果数は、マーブル100では23個、ピコでは14個、チェルシーミニでは25個、サンチェリーでは25個、シュガーランプでは21個、プチでは8個、レッドペアでは10個、イエローペアでは11個、チェリーピンクでは106個、乙姫では7個であった。

収穫は、レッドペア、イエローペア、チェリーピンクでは8月16日から始まり、その他の品種は8月4日から始ま

った。各品種とも9月17日で収穫を終了したが、完全に収穫を終わった段数は、プチでは5段、チェリーピンクでは1段、その他の品種では3段までであった。

上物収量は、チェリーピンクが最も多く、次いでシュガーランプ、チェルシーミニ、ピコが多かった。マーブル100、サンチェリーは、収穫数は多いが果重がやや小さいため収量は多くなかった。イエローペア、レッドペアは、少収で

表2 着果数(株当たり)

品 種	花 房							着 果 率 (%)
	1 段	2 段	3 段	4 段	5 段	6 段	7 段	
マ ー ブ ル 100	15.4	14.9	26.8	24.6	26.4	29.9	—	78.4
ピ コ	9.6	9.0	11.5	18.4	17.3	17.5	—	91.9
チェルシーミニ	9.0	9.3	12.8	16.6	16.0	14.1	—	92.0
サン チ ャ リ ー	15.3	20.4	29.2	23.5	28.1	33.4	—	81.8
シュガーランプ	10.3	13.8	21.3	21.8	27.0	31.0	—	80.3
プ チ	7.0	6.7	6.7	8.2	8.7	9.7	11.5	93.8
レ ッ ド ペ ア	6.6	7.4	11.0	10.0	14.0	11.2	—	91.9
イエロ ーペア	5.8	7.4	13.0	11.9	10.1	19.8	—	83.1
チェリーピンク	91.8	102.9	125.1	—	—	—	—	—
乙 姫	7.0	6.8	6.3	6.0	8.0	5.3	—	87.1
タイ ニ ー テ ム	—	—	—	—	—	—	—	—

表3 収量調査(株当たり)

品 種	総 収 量		上 物 収 量		裂果率 (%)
	個数	重量 (g)	個数	重量 (g)	
マ ー ブ ル 100	84.0	1113	81.1	1079	3.5
ピ コ	72.6	1568	69.4	1499	4.4
チェルシーミニ	58.6	1824	51.3	1595	12.5
サンチェリー	103.4	1341	100.8	1310	2.5
シュガーランプ	83.6	1847	75.1	1660	10.2
プ チ	50.1	1138	47.1	1076	5.4
レ ッ ド ペ ア	47.9	891	27.4	506	43.2
イエローペア	48.9	867	36.4	644	25.6
チェリーピンク	118.9	3624	88.4	2696	25.7
乙 姫	34.9	1319	29.5	1115	15.5
タイニーテム	203.5	1214	149.7	898	26.4

あった。また、タイニーテムは、収穫数は多かったが果重が小さいために少収となった。

裂果は、サンチェリー、マール 100、ピコ、プチで少なく、レッドペア、イエローペア、チェリーピンク、タイニーテムで多かった。

果重は、チェリーピンク、乙姫が重くタイニーテム、サンチェリー、マール 100 が軽かった。タイニーテム、乙姫は玉揃いも悪かった。

果形は、チェリーピンクが長球で、レッドペア、イエローペアが洋梨形でその他の品種は、球形であった。

心室数は、乙姫が3室で他の品種は2室であった。糖度は、マール 100、サンチェリーが高かった。果色は、イエローペアが黄色、チェリーピンクがピンク色、タイニーテムは赤色と黄色があり、レッドペアは赤色であった。

表4 果実の特性

品 種	果 重 (g)	果 実 径 (cm)		心 室 数	硬 度 (kg)	糖 度 Brix (%)	果 色	果 形
		縦	横					
マ ー ブ ル 100	14.4	2.7	3.0	2.0	0.86	6.6	赤	球
ピ コ	20.1	3.3	3.2	2.0	1.27	6.2	赤	球
チェルシーミニ	25.2	3.2	3.5	2.0	1.05	5.9	赤	球
サンチェリー	13.1	2.6	2.8	2.0	0.90	6.8	赤	球
シュガーランプ	21.1	2.9	3.3	2.0	0.80	5.8	赤	球
プ チ	18.6	3.0	3.2	2.0	1.17	5.1	赤	球
レ ッ ド ペ ア	16.3	4.4	2.7	2.0	1.15	5.0	赤	洋 梨
イエローペア	15.2	4.4	2.6	2.0	0.77	4.8	黄	洋 梨
チェリーピンク	28.7	4.6	3.3	2.1	0.86	4.9	ピ ン ク	長 球
乙 姫	28.6	3.2	3.8	3.3	1.12	4.4	赤	球
タイニーテム	10.0	2.6	2.6	2.5	1.37	5.1	赤	球
タイニーテム	5.6	2.0	2.1	2.4	1.08	5.2	黄	球

注. 調査日: 8月20日, 8月29日, 表示は2回の平均値。糖度計: アタゴ手持屈折計
硬度計: ユニバーサル型硬度計 5kg (円筒型, 径 5mm)

4 ま と め

ミニトマト11品種を供して、露地栽培において品種特性と生育・収量を検討した結果、サンチェリー、マール 100 が、裂果が少なく、糖度も高く、収穫数も多く有望と考え

られた。

また、収穫期間の延長と品質向上の面から、露地栽培では、十分な成果を期待できず、施設での栽培が適していると思われた。